

いまさらだけど
そもそも

なぜ発掘調査をするピヨ?



おしえて!
があこ先生
考古学者の
「たまごちゃん」

開発工事などによって、遺跡をそのまま保存できない場合に、遺跡を「記録」として保存するための発掘調査を行います。全国で行われている発掘調査の約9割が記録保存のための調査で、福岡市内では年間40～50件ほど実施されています。



丸隈山古墳の
があこ先生

遺跡を記録として残すために、まずは現地で「発掘作業」を行います。むかしの人々の住居や水田、道路などの遺構を手作業で掘り返し、埋まっている遺物を取り上げます。そして、見つかった遺構の位置や形、遺構や遺物が埋まっていた様子などを記録するため、測量や写真撮影を行います。

現地での作業が終わると、次は、室内での「整理作業」です。バラバラになっていた土器を立体パズルのようにつなぎあわせ、遺物をくわしく観察し、遺物の実測図を作成します。そして、遺構や遺物を観察して得た情報や実測図・写真を掲載した「発掘調査報告書」と呼ばれる冊子を刊行します。

遺跡に残されていたむかしの人々の痕跡は、発掘調査報告書として記録・保存され、地域の歴史を解明していくための資料として活用されています。報告書は、図書館に配架されるほか、「全国遺跡報告総覧」というウェブサイトでも閲覧できます。ぜひチェックしてみてくださいね。

報告書ができるまで
【発掘作業】



遺構を手作業で掘削



遺構の測量や写真撮影

【整理作業】



遺物の実測や写真撮影



発掘調査報告書の刊行

【関連サイト】 奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/40/40130>